やっとかめ文化祭

歴史まち歩き

まちなかに残る山 庶民の行楽と信仰の地

22 飯田街道 八事山

コース【地下鉄八事駅▸▸地下鉄塩釜口駅】

現在は高級住宅街として知られる八事エリアは、江戸時代は名古屋の東の端でした。城下を出て最初の山が八事山でした。
門前の飯田街道は八事の東で峠道になっていて、名古屋への東南の入り口という位置から、興正寺はこの峠道を守る「砦」としての軍事的役割を持っていたといいます。
八事は、殿様だけでなく市民の行楽地としても賑わいました。尾張徳川家７代藩主の徳川宗春もまたこの地を好んで訪れました。

① 八事山興正寺

貞享三年（1686年）、高野山などで修行を重ねた天瑞圓照和尚が俗世から離れた八事の地に惹かれ、草庵を結んだのが始まりとなります。ご本尊である大日如来は、現在も山中の最高峰呑海峰に鎮座しております。藩主光友は母の供養のために銅製の大日如来像の鋳造を企画し、光友自ら一字三拝の石経2個を書き、1個は寺に納め像台座石の下に埋められたといいます。興正寺には尾張徳川家7代藩主宗春自筆の「八事山」の掛物が所蔵されています。文化5年（1808）には五重塔が建立されました。愛知県内で唯一残る木造の五重塔であり、現在も八事のシンボルとして親しまれています。

② 八事音聞山

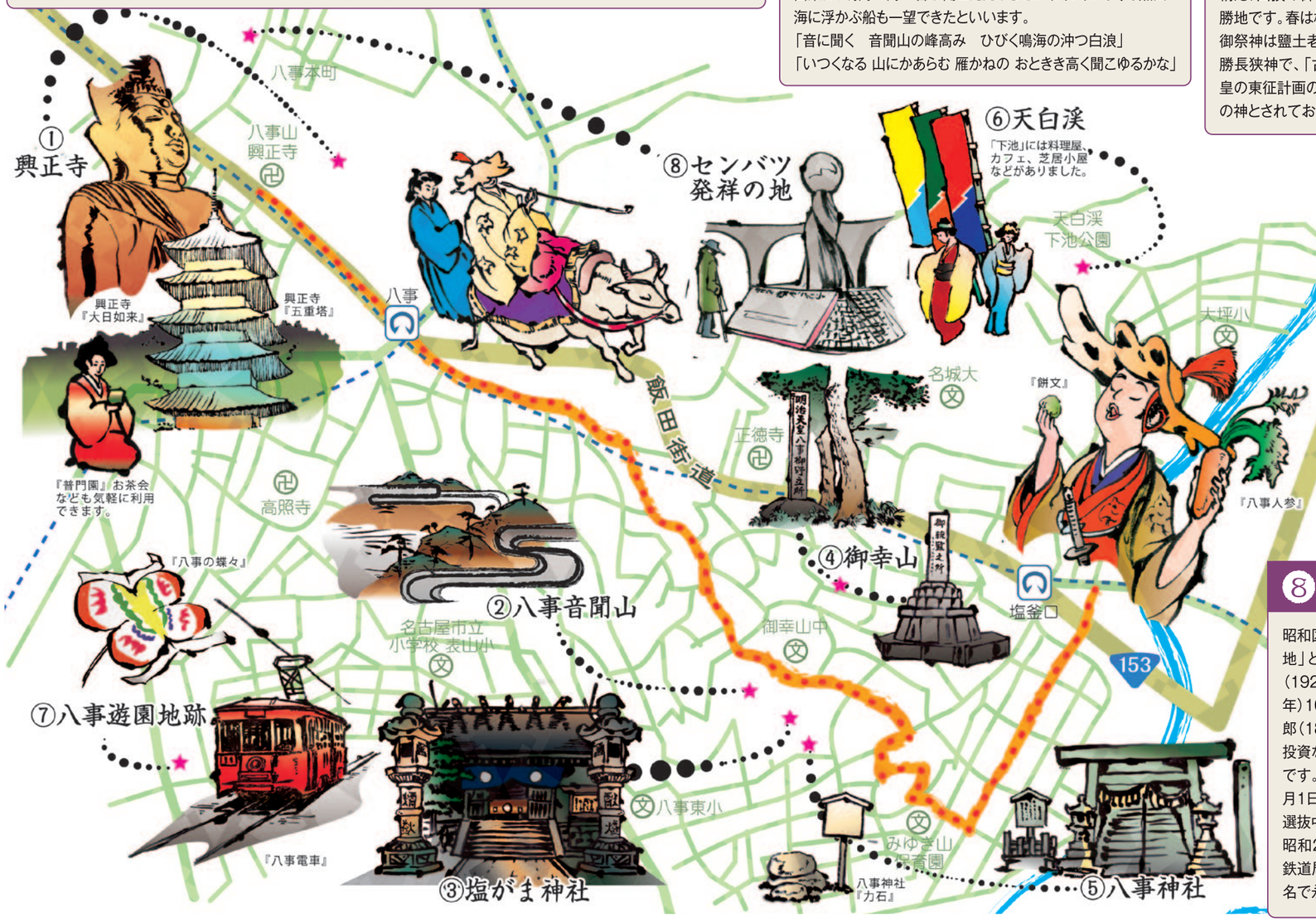
かつては市民の行楽地としても賑わった八事。八事山興正寺、天道山高照寺といった寺もあって、参拝方々遊んだ人も多かったようです。ここから南東へ1キロほど行くと、江戸時代名勝として知られた音聞山です。平安時代から歌に詠まれた音聞山の名前の由来は、鳴海の海の音が聞こえたからといわれています。熱田の海に浮かぶ船も一望できたといいます。
「音に聞く　音聞山の峰高み　ひびく鳴海の沖つ白浪」
「いつくなる 山にかあらむ 雁かねの おときき高く聞こゆるかな」

③ 塩竈神社

この神社の創建は、社伝によると、陸奥の国宮城郡（現在の宮城県塩釜市）の塩竈神社分霊を勧請した弘化年中（1844～48年）のことであるといいます。
子授けの神、安産の神、虫封じの神として広く知られています。
明治15年（1882年）10月に、御幸山中腹に約1万1千平方米の境内社殿を構え、山頂の御幸山には明治天皇の御野立所の碑があり、東は眺望の良い景勝地です。春は桜、秋は紅葉の名勝地として知られています。
御祭神は鹽土老翁神（しおつちおぢのかみ）別名:塩椎神･塩筒老翁神･事勝国勝長狭神で、「古事記」や「日本書紀」の中の海幸彦･山幸彦の神話や神武天皇の東征計画の神話などに登場して、遺憾なく博識ぶりを発揮なさる教え導きの神とされております。製塩の技術をお伝えになった神としても有名です。

④ 御幸山

塩竈神社の北側には御幸山公園と御幸山中学校があります。この公園には、御幸山の名の由来を示す二つの石碑が建てられています。ひとつは「明治天皇八事御野立所」、そしてもうひとつには「御統監之所」とあります。明治23年（1890年）、陸軍大演習が行われた際に明治天皇の御野立所となりました。その際に音聞山から御幸山と山の名前が変えられました。公園からの眺望も絶景です。



⑤ 八事神社

祭神は応神天皇など3祭神を併祀しています。この宮は、正八幡宮と一之御前社、高峯大明神の三社を合祀して、明治43年（1910年）4月25日に現在地に建立され、名称も八事神社と改められました。住民が力を競った「力石」や、地元の人たちが芝居を演じたという能舞台風の拝殿があります。

⑥ 天白渓

昭和の初め頃、名城大学の東から八事霊園東北にかけての一帯が、当時尾張百景の一つ「天白渓」と呼ばれ、市民の行楽地として賑わいました。「上池」には水上飛行機が浮かび、「下池」にはボートがあり、山辺に料理屋、カフェ、芝居小屋などがありました。現在は大学のグラウンドや児童公園となり、往時をしのぶものはありません。東山動植物園の開園が衰退の理由でした。

⑦ 八事遊園地跡

明治45年（1911年）、尾張電気軌道株式会社が名古屋東郊･飯田街道（植田街道とも平針街道とも）に路面電車を走らせました。
尾張電気軌道㈱は、集客のため、終点･八事付近に「八事球場」と「八事遊園地」を誘致しました。もともと八事一帯は江戸のむかしより「山遊び」の名所でした。「八事電車」の開通に併せて開園した「八事遊園地」は大人気となります。遊園地には、大きな池の周りにいろいろな施設が配置され、ボート乗り場を始め、競馬場、猿園、ブランコ、滑り台などができました。

⑧ センバツ発祥の地

昭和区滝川町にあった旧山本球場が「センバツ発祥の地」といわれています。八事･山本球場は大正10年（1921年）から工事を始め、1年後の大正11年（1922年）10月に球場が完成しました。この球場は、山本権十郎（1858～1952年）が運動具類の製造販売や不動産投資などで財を成し、個人の資産で作った個人の球場です。収容人数は、2,000人。大正13年（1924年）4月1日から5日まで、ここ山本球場（当時）で第1回全国選抜中等学校野球大会が開催されました。
昭和22年（1974年）には社会人野球チーム名古屋鉄道局（現JR東海）の本拠地となり、国鉄八事球場の名で永く親しまれました。

八事の蝶々

伝統玩具の「八事の蝶々」は、竹と、赤、黄、橙、緑、紫で色付けされた和紙で作製する郷土玩具です。
明治の初め頃から昭和の初めにかけ、寺社の門前や八事遊園地など八事地域で作成･販売されていました。考案者は明治の初期、禄を失った元士族の前田柳三右衛門です。しかし戦後は次第に姿を消し、資料や人々の記憶に残るだけのものになりました。昭和50年（1975年）頃に、かつて天白区にお住まいだった加藤かなさんが、幼い頃の記憶を頼りに地元の幼稚園の子ども達のために作ったことを端緒として配り始め、その後、多くの人に作り方を伝え、平成14年（2002年）6月には保存会が立ち上がり、多くの人々に八事の蝶々づくりを伝えています。

〈注意事項〉この地図は「歴史まち歩き」の資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴でご参加ください。車などに十分注意し、各自で責任をもって行動してください。住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。●お問い合わせ：〈公財〉名古屋観光コンベンションビューロー　TEL 052-202-1145（この情報は平成25年11月現在のものです。）